

サポートブック「はーと」の取り組み

～障がい児に切れ目のない支援を～

河内長野市では障がい児に切れ目のない支援を提供するため、大阪大谷大学の協力を得てサポートブック「はーと」を作成しています。

このサポートブックは、発達支援の必要な子どもの様子などを書いておき、誰もがサポートしやすくするためのファイルです。入園・入学時などにサポートブックを学校や関係機関に見せることで、子どもの情報を分かりやすく整理して伝えることができ、連続性のある適切な支援が可能となります。

■サポートブックの構成

本人の紹介、家族構成、生い立ち、年表、本人を中心とした生活マップ、生活の記録、相談・受診・検査の記録などで構成されています。

■サポートブックの配布場所

障がい福祉課、子ども・子育て総合センター「あいっく」（すくすく相談ゾーン）、保健センター、市立保育所・幼稚園・小中学校、ピアセンターかわちながの、相談支援センターカーナ、こころッとなど

●サポートブック「はーと」実践報告会

サポートブック作成から2年目を迎えた今年2月16日、市立市民交流センターで実践報告会が開催され、保護者や学校、保育園、支援機関関係者など約70名が参加しました。

シンポジウムでは保護者や幼稚園、小学校、市教育委員会など各分野からの取り組みが発表され、『はーと』ができたことで、一貫した長期的な視点を持つようになった。次のライフステージにつなぐツールとして活用していきたい

『はーと』に記入することで子どものよい所や強みを発見でき、愛情が深まった。伝えにくいことも『はーと』があることで伝えることができ、学習環境の調整など配慮してもらえた」などの意見も述べられ、参加した人たちはサポートブックについての理解を深めました。

